

関西 公開研究集会

ひとりのための福祉・みんなのための福祉

じりつしえんほう ゆくえ りねん な にほん しょうがいしやせいさく と
～自立支援法の行方・理念無き日本の障害者政策を問う～

<メッセージ>

自立支援法の影響がそれぞれの生活にはっきりと出始めている今こそあらためて障害者福祉政策の理念と障害者の置かれた現実を、問い直すべき時だと考えました。

自らが障害当事者である研究者を含むパネラーと、当事者運動に携わってきた者が、それぞれの視点から、障害者福祉政策の現在までと今後を独自の視点で語ります。あなた自らが発言する場として、是非ご参加ください。

日時：2007年9月24日（月・祝）13:30～16:30（3時間）

場所：大阪府福祉人権推進センター（ヒューマインド）2階研修室(1)

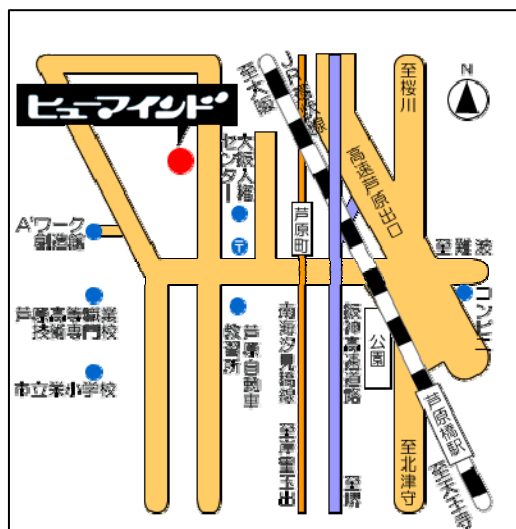
住所：大阪市浪速区久保吉2-2-3 <http://www.humind.or.jp/index.html>

【交通機関】

☆ J R 環状線「芦原橋駅」より約700m 北口を出て弁天町、大正方面へ、2つ目の信号を

左、200m 先（芦原自動車教習所角）の信号を右、次の信号前

☆ 南海汐見橋線「芦原駅」より約300 m



参加登録：不要 参加費：無料

（会場の関係で約90名の定員を想定しています。）

◎ 手話通訳 要約筆記 あり

（盲ろう者の方への通訳介助には、集会中の時給相当

の財政的支援をいたしますので、参加をご希望の方

は9月18日（月）までに障大連 事務局 細井に

ご連絡いただきますようお願いいたします。）

主催：障害者生活実態調査研究会

協賛：障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議（障大連）

連絡先：障大連〔担当：細井〕

（電話06-6779-8126・電子メールnetwork03@nifty.com）

プログラム

し かいしんこう かつまたゆきこ しょうがいしやせいかつじつたいちよう さ けんきゆうかいしゆにんけんきゆうしや
司会進行 勝又幸子 障害者生活実態調査研究会主任研究者

● 基調講演 (20分)

なぜこの社会は障害者にコストを振り向けなければならないのか

ほし か りようじ
星加 良司

とうきょうだいがくせんたんか がくぎじゆつけんきゆう とくにんじよきょう しょうがいがく
東京大学先端科学技術研究センター特任助教(障害学)

とうきょうだいがくだいがくいんじんぶんしやかいけいけんきゆう か しゃかいがくはかせ
東京大学大学院人文社会系研究科 社会学博士

● パネルディスカッション (各10分)

ちょうさ しょうがいしや げんじつ うつ だ
調査データは障害者のどのような現実を映し出したか？

しょうがいしやせいかつじつたいちようさけんきゆうかい
(障害者生活実態調査研究会メンバー)

じりつしえんほうしこうご かすみがせき なに かんが
自立支援法施行後、霞ヶ関では何を考えているか？

みさわ さとる
三澤 了

でいーびーあい しょうがいしや ひほんかいぎ ぎちよう
D P I (障害者インターナショナル) 日本会議 議長

とうじしやだんたい なに とき
当事者団体は何をすべき時か？

いそ の ひろし
磯野 博

しずおかふくし いりようせんもんがっこう じょうきんきょういん
静岡福祉医療専門学校 常勤教員

じえーでいー にほんしょうがいしやきょうぎ かい せいさくい いんかい い いん
J D (日本障害者協議会) 政策委員会委員

じりつしえんほう あと く みらい
自立支援法の後に来る「未来」とは？

くすのき としお
楠 敏雄

しょうだいれんぎちよう
障大連議長

ぜんたいとうろん ぶん
全体討論 (60分)

まとめ(10分)

こうし 講師プロフィール

星加 良司 (ほしか りょうじ) 東京在住
東京大学先端科学技術研究センター特任助教 (障害学)
東京大学大学院人文社会系研究科 社会学博士

著書『障害とは何か——ディスアビリティの社会理論に向けて』(生活書院、2007)において、障害を社会現象として捉えるための理論枠組みの提示を試みた。

また福島智との共著論文「<存在の肯定>を支える二つの<基本ニーズ>—障害の視点で考える現代社会の「不安」の構造」(『思想』No. 983)では、自立支援法の根底にある規範や意識について批判的に考察した。自身は全盲。

三澤 了 (みさわ さとる) 東京在住
DPI (障害者インターナショナル) 日本会議 議長

DPI は国際障害者年を機に、身体、知的、精神など、障害の種別を超えて自らの声をもって活動する障害当事者団体として設立された。2004年から議長をつとめる。

自らは頸随損傷により電動車いすで移動。障害基礎年金創設時代から所得保障の課題に取り組み、現在まで当事者運動の利益代表者として政府機関や政党とのパイプ役を果たしている。

楠 敏雄 (くすのき としお) 大阪在住
障大連 (障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議) 議長 全障連 (全国障害者解放運動連絡会議)
相談役 DPI 日本会議 常任理事

龍谷大学大学院卒業後、視力障害者として全国で初めて公立普通高校講師となる。

著書『「障害者」解放とは何か～「障害者」として生きることと解放運動』解放出版「自立と共生を求めて」明石書店など

磯野 博 (いその ひろし) 静岡在住
静岡福祉医療専門学校 常勤教員
龍谷大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程 在籍

JD (日本障害者協議会) 政策委員会委員

無年金障害者の会で調査を担当し、JDが行なった自立支援法の影響調査においても中心的な役割を担っている。自らは弱視の当事者でもある。

土屋 葉 (つちや よう) 愛知在住

愛知大学文学部人文社会学科助教 (家族社会学)

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 社会科学博士

障害者生活実態調査研究会 分担研究者

著書『障害者家族を生きる』(勁草書房、2002)において、家族社会学の立場から障害をもつ人と家族のリアリティを描きだした。※共著に『セクシュアリティの障害学』(明石書店、2005)、『ケアとサポートの社会学』(法政大学出版局、2007)など。

遠山 真世 (とおやま まさよ) 東京在住

立教大学コミュニティ福祉学部助教 (障害福祉論)

東京都立大学大学院 社会福祉学博士

障害者生活実態調査研究会 分担研究者

論文『障害者の就業問題と社会モデル—能力をめぐる試論—』(社会政策研究)など、障害者の就労を研究者の目から客観的・論理的に捉えた著作を発表している。

圓山 里子 (まるやま さとこ) 新潟市在住

特定非営利活動法人自立生活センター新潟 職員

東京都立大学大学院 社会福祉学修士 (博士課程単位取得満期退学)

障害者生活実態調査研究会 分担研究者 現在は、自立生活センター新潟で当事者の自立生活を支援する業務や「にいがた自立生活研究会」等の事務局に携わっている。

Web ページ <http://www.geocities.jp/marusato70/>

勝又 幸子 (かつまた ゆきこ) 東京在住

障害者生活実態調査研究会 主任研究者

国立社会保障・人口問題研究所 情報調査分析部長 (社会保障財政論)

国際基督教大学大学院行政学研究科 行政学修士

厚生労働科学研究費で平成17・18年に障害者生活実態調査を実施した。従来の障害者福祉研究の枠を超えて学際的研究体制を提案している。